

令和6年度 学校評価 報告書

香川県立高松桜井高等学校

1 学校評価関係行事（別紙1）

予定どおり計画を実施できた。

2 自己評価（別紙2）

（1）目標の設定

4～5月に、昨年度の学校評価の分析に基づいて、各分掌・学年団で今年度の主な活動目標、具体的方策を検討した。それらを一覧表にまとめ、第1回学校評議員会（7月16日実施）に提示した。

（2）中間評価

9月末時点での目標達成状況等について、各分掌・学年団で中間評価を行い、年度後半の取組を検討した。

（3）年度末評価

1月末時点で、各分掌・学年団における今年度末の目標達成状況を評価し、一覧表にまとめ、第2回学校評議員会・学校関係者評価委員会（2月12日実施）に資料として提示した。

（4）自己評価の結果と今後の課題・改善策等

- ・中間評価では、24項目中、A：2、B：22、C：0であった。評価Cは無く（令和5年度は0、令和4年度は1、令和3年度は2）、概ね成果があったと評価した。その上で、各分掌では、次年度に向けた課題・改善策を意識しながら、年度後半も引き続き成果を上げるような取り組みを進めていくことを確認した。
- ・年度末評価は中間評価後の改善により、A：8、B：16、C：0となり、全体評価はBとした。
- ・評価については、令和7年2月に実施した「学校関係者評価委員会（兼 第2回学校評議員会）」において、委員から「分掌等自己評価」の各項目の評価は総じて控えめであるように見受けられる。2、3、9、12、19などの項目は、Aでもよいのではないか。Bの評価で課題が明記されている項目はなるほどと思うが、成果があつて課題の明記がない項目は、Aでもよいのではないか。また「水準に達していない者がいても、それが他の項目と同様の割合なら評価はAでよいと思う。」との意見をいただいた。様々な取り組みについて「100%」、「全ての生徒」を目指すことを前提としつつも、一定の成果が見られれば「A：よく成果をあげた」と評価できるような基準（数値目標）を設定することも検討する必要がある。
- ・教務部では、Classiを活用した遅刻・欠席連絡や、自動採点ソフトの導入により教職員の負担軽減に繋がった。また生成AI、電子黒板等の研修を実施するなど、ICT活用推進に向け、ハード・ソフト両面の取組を進めている。今後は、ICT活用実践例の収集と情報提供を図っていきたい。教育研究部では、総合的な探究の時間において、外部人材を積極的に活用し、生徒個々に相応しい進路選択や課題研究の意識づけに繋げている。このような取り組みは、進路指導部の第一志望校合格に向けた志望理由書、面接、小論文の指導充実との連携を図ることができる。今年度は、創立30周年を契機に、PTAや同窓会との交流機会が増加した。このような本校関係団体や機関、さらには地域との連携を通して、各分掌の課題解決に向けた改善策を考えていく機会を得られる一年であった。
- ・引き続き、本校喫緊の課題の明確化と共有化を図り、来年度の各分掌・学年団の目標設定に活かしたい。

3 アンケートによる評価

- (1) 実施時期 令和6年12月
- (2) 対象 全校生徒、保護者、教員
- (3) 結果 (別紙3-1・2)、(別紙4-1・2)
- (4) アンケート結果と今後の課題・改善策等

生徒アンケートでは、どの学年も満足度との相関関係が強い傾向にあるのは「学校行事」、「健康安全」、「部活動」である。どの学年も「健康安全」との相関関係が高かったのは、アンケートの時期がインフルエンザ流行の時期と重なったことが影響している可能性がある。3年生の「規範意識」の相関関係が高くなっている。今年度の3年生では、「社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている」で「おおいにあてはまる」を選んでいる生徒の「学校生活満足」度が高く、「全くあてはまらない」を選んでいる生徒が「学校生活満足」度が低いという傾向にある。言いかえると「満足」度が「規範意識」に最もよく表れているとも言える。

保護者アンケートでは、全学年の保護者で「教育相談」に相関の高さがみられる。また2・3学年の保護者で「部活動」の平均値が最も高くなっている。しかし、「満足」度との相関は高くない。つまり、2年生保護者の「満足」度は「部活動」よりも「いじめ対策」や「健康安全」などに表れ、3年生保護者の「満足」度は「進路指導」によく表れているということが言える。また、どの学年でも「広報」の相関が高くなっている。引き続き、本校の行事、部活動、生徒の活躍などについて、報道機関、学校HPを積極的に活用して情報発信を積極的に行っていく必要がある。

4 授業評価

- (1) 実施時期 令和5年7月
- (2) 結果 (別紙5-1・2)
- (3) 結果と今後の課題・改善策等

どの教科も「主体的に学ぶことができた」、「できる(わかる)ことが増えた」において「5:あてはまる」又は「4:いくらかあてはまる」の評価をした割合が概ね8割を超えており、授業への取組の姿勢が良く、授業のねらいが達成されていると思われる。特に体育、芸術といった実技教科では、「主体的に学ぶことができた」の評価で5をつけた生徒が60～85%（国語、地歴公民、数学、理科、英語では35～59%）おり、主体的に学ぶことができている様子が見えてくる。一方で、教員が求めている学習指導要領で定義される「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」意味での「主体的な学び」と、生徒が考える「主体的な学び」とのずれが見受けられることについては、学習指導要領の示すような「主体的な学び」となるよう、引き続きICT機器等の活用も進めながら授業研究に取り組んでいく必要がある。

令和7年度入学生から生徒各自がタブレット端末を購入し、日々の学習等に取り組むことになること（2・3年生は貸与）、1年生の全ホームルーム教室に電子黒板が設置されたこと（令和7年度に2年生、令和8年度に3年生の全ホームルーム教室に設置予定）、また生徒がICTを利用する授業に対して高評価であることなどから、どの学年においても授業等でのICT活用が一層求められている。ICT活用については、ルールやマナー、管理上の問題もあり、多方面からの研究の継続が必要である。今後もハード面、ソフト面の考察を続け、授業評価・改善につなげていきたい。

5 学校関係者評価

学校関係者評価委員会を開催し、意見をいただいた。

- (1) 委員 学校評議員 3名 P T A役員 4名 (会長、副会長3名)
校長、教頭2名、事務部長、教務主任、教育研究部長 計13名
- (2) 実施期日 令和7年2月12日(火) 15:00~16:30
- (3) 評価の内容 (別紙6)

6 学校評価の公表

- ・「学校評価アンケート」の結果をP T A評議員会・総会において説明した。
- ・学校評価及びその資料を学校ホームページに掲載した。

7 来年度の取り組み

- ・今年度と同様に、学校の重点目標に基づいて分掌、学年団による目標を設定し、中間(～9月)、年度末(～1月)に自己評価を行う。
- ・アンケート項目の見直しを行った上で、生徒・保護者・教員を対象に学校評価アンケートを行う。
- ・上記の資料をもとに、年度末に学校関係者評価を行い、次年度の改善に活かす。
- ・学校評価関係行事、分掌等の目標、学校評価結果等をホームページに掲載し、情報公開に努める。

令和6年度 学校評価関係行事報告

月	自己評価 (分掌・学年団)	アンケートによる評価 (生徒・保護者・教員)	学校関係者評価	その他
4	各分掌等の 重点目標等の策定			4/26 体育祭 4/30 PTA 評議員会①
5	職員会議で 全職員に提示			5/10 PTA 総会 5/10 公開授業
6				
7		授業評価アンケート (生徒)	7/16 第1回学校評議員会	7/4 学校新聞 [号外] 7/12 PTA 評議員会②
8		アンケート結果を 職員会議に提示		
9	中間評価			9/6-7 文化祭
10	職員会議で 全職員に提示			10/4 学校新聞 [88号] 10/21-25 公開授業週間
11				11/6 創立30周年 記念講演会
12		学校評価アンケート (生徒・保護者・教員)		12/11 PTAペットボトルランタン
1	年度末評価 全職員に提示	アンケート結果を 職員会議に提示		1/21 PTA 評議員会③ 1/31 学校新聞 [89号]
2	評価結果の取りまとめ アンケートおよび自己評価結果の総括		2/12 第2回学校評議員会兼 学校関係者評価委員会	
3	次年度の課題や取組等について検討			3/5 学校新聞 [90号] 評価結果の公表

スクール ミッション 教育方針	「創生・自主・共生」の校訓のもと、個に応じた教育活動を通して、確かな学力と、他者を思いやる心、地域社会に貢献する志を持った、国内外で活躍できるグローバルな人材を育成します。 (1) 大学進学を見据えた教育課程の編成と、確かな基礎学力の養成と探究的な学習活動の展開する (2) 生徒が自ら主体的に学び、考え、行動する活動の重視し、多様な経験の積み重ねることによる人間的成長の促進する (3) 「ユネスコスクール」として、国内外の地域や人との関わりを通じ、幅広い視野と豊かな社会性・人間性を養う (4) 個を生かし、個を伸ばし、個に応じる教育により希望進路の実現を支援するとともに、変化に対応できる力を育む
---------------------------	---

前年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	全体評価
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな自動採点ソフトの導入で、観点別評価の負担軽減が図られた。 ・Classi導入で遅刻欠席管理の集約、管理が容易になった。 ・ICTの更なる活用に向けた環境整備が必要である。 ・生徒指導では、遅刻、交通事故が増加傾向で、一層の指導が必要である。 ・教育相談では、早期発見・情報共有・早期対応に繋げることができた。 ・進路指導では、面談を増やし生徒に寄り添った指導で合格率が上昇した。 ・行事等の精選・充実を図り、更なる「働き方改革」の推進が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の完全実施に伴い、本校の観点別評価について研究を進める。 ・Classi、Teams等の学習ツールを積極的に活用し、学習環境を整える。 ・生徒指導・教育相談では、教職員の早期発見・情報共有の日常化を図る。 ・進路指導では、学習指導の徹底と個人面談により第一志望校合格に導く。 ・創立30周年の各種事業を通して、生徒の主体的活動を促し、愛校心を育む。 ・学校行事の不断の見直しを行い、生徒、教職員の心身の健康の保持増進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動採点ソフト利用者増で、観点別評価の一層の負担軽減を図る。 ・電子黒板導入に備え、ICT機器を効果的に活用した授業実践を行う。 ・生徒の変化に対して、ケースを実施するなど早期対応に努める。 ・個人面談等を重ね、保護者の理解のもと第一志望校合格に繋げる。 ・創立30周年事業では生徒実行委員会など生徒が関わる機会を設ける。 ・行事の精選・充実を図り、分掌、部活動のあり方の検討を継続する。 	B

分掌等	本年度の主な活動目標	主な具体的方策	評価		中間評価・年度末評価における成果・課題		
			中間	年度末			
1	教務	行事等の調整を行いながら、授業時間の確保に努める。	各分掌等と協議し、学校行事を調整する。学期、曜日毎の授業時間の平均化に向け調整する。	B	A	学期、曜日ごとの授業時間の平均化、学校行事の調整ができた。今年度の課題を踏まえ、次年度の計画を立案した。	
2		学校における有効なICT活用を検討し、推進する。	他校での実施状況等の情報収集と検討する。必要な研修は早期に実施し、教員のスキルアップを図る。	B	B		Classi活用が負担軽減に繋がった。生成AI、電子黒板等の研修を実施した。課題であるICT活用実践例の情報提供を図り、ICT活用推進を図る。
3	教育研究	「課題研究」のレベルアップを図る具体的方法を更に模索する。	図書室やネットを活用し、多くの論文に触れさせる。プレゼンスキルを身につけさせる。	B	B	インターネットの活用法や論文構成の指導、図書室や先輩の研究論文等を活用して多くの論文に触れた。早期に課題意識をもたせる指導を継続したい。	
4		興味・関心に基づき、卒業後の進路を考え、適切に選択できるようにする。	授業を大切にすることが進路実現に繋がることを理解させる。外部講師を活用し、生徒の視野を広げる。	B	A	ネットを適切に活用し、授業を大切にする重要性を理解させた。外部人材の貴重なアドバイスも生徒個々に相応しい進路選択に繋がると考えている。	
5	進路指導	「思考力・判断力・表現力」を養成し、入試に備えた学習指導を徹底する。	各教科と連携し、基礎的な学力を確実に身につけさせる。自ら学ぶ意欲や姿勢、態度を身につけさせる。	B	B	考查や模試を活用し、基礎学力定着や応用力伸長を図った。2・3年は過年度と比較して成績向上が認められた。1年は成績向上の兆しが窺えた。	
6		キャリアを考えた志望校検討をさせ、第一志望合格の実力を養成する。	個人面談を随時行い、適切な志望校選択に導く。日頃の生活・学習指導、模試の受験や個別指導を徹底する。	B	B	第一志望校合格の勉強法等を自主的に考えさせた。共テ無し総合型選抜等合格率は50%。志望理由書、面接、小論文の指導充実が課題である。	
7	生徒指導	当たり前のこと(服装整備・時間を守る・あいさつ等)を当たり前にできるようにする。	服装検査、服装整備週間の実施、遅刻指導、登校時の校門指導、挨拶運動などを行う。	B	B	遅刻数は減少しておらず、今後も継続的な指導が必要である。服装違反を継続する生徒は少なく落ち着いている。挨拶ができる生徒が増えている。	
8		日常から自転車の乗車ルール、マナーに対する意識を高める。	学校生活を通じた交通安全啓発(交通安全教室、自転車運転免許制度講習会、交通安全LHR等)を行う。	B	A	継続的指導により事故、警察警告数はかなり減少。ヘルメット着用率は微増で、購入補助を受けた人数より少ない。今後も交通安全意識高揚に努める。	
9	特別活動	生徒が主体的に取り組める機会の提供と内容の充実を図る。	生徒が主体的に活動できる場を整備し、多くの生徒が参加できるボランティア活動の機会を提供する。	B	B	ボランティア活動参加者増、清掃、募金活動も活発化。92%が「参加して良かった」、90%以上が体育祭、文化祭に「主体的に取り組んだ」と回答。	
10		ユネスコスクールとしての活動を充実させる。	ユネスコスクールに関する校内活動及び地域と連携した活動を充実させる。	B	B	募金活動、交流会、文化祭展示・販売、カボチャ学生との交流等、充実した活動。ユネスコスクールの認知は73%に留まり、認知拡大の工夫を要する。	
11	人権・同和教育	生徒の人権感覚を高めるために、活動を工夫する。	LHRの事前学習を工夫する。人権委員によるプレゼンなどで全校生徒の意識向上を目指す。	A	A	LGBT理解のLHRは当事者である卒業生からのビデオで実施し、大変好評で効果があった。人権委員による司会は、LHRに対する責任と姿勢を養った。	
12		教職員の人権意識を高める工夫をする。	現職教育等で人権課題について理解し、人権という視点を再確認する。	B	B	本校周辺の歴史に関する人権講演会は全教職員も聴講し、人権意識高揚に繋がった。現地研修を通じ、同和問題への知識理解、再認識を促した。	
13	教育相談	生徒の学校生活における問題の早期発見、早期対応に努める。	学校生活アンケートを実施し、現状の早期把握。SCとの座談会や教育相談だよりを発行する。	B	B	関係職員等が連携し、速やかな対応に努めた。早期把握に繋がる学校生活アンケートへの回答を躊躇する一部生徒が相談しやすい環境づくりを目指す。	
14		教育相談における組織的な対応・支援に努める。	情報を関係職員で共有し、状況の改善、回復、再発防止まで一貫した支援体制を構築する。	B	B	特定の教職員に負担が掛からないように系統立てた対応できるよう尽力した。SOSの出し方、心についてなどを学ぶ機会を作る必要性を感じる。	
15	保健	健康診断の目的を理解させ、自主的な健康管理に努めさせる。	夏休みまでに担任・部活動顧問と協力して健診後の治療を促すとともに、個別指導で治療率を向上させる。	B	B	夏季休業中の治療率が例年に比べ多かったせい、その後の治療率が上がらなかった。保健だより等を通じて、自主的な健康管理を促したい。	
16		救命救急に関する知識や技術を身に付け、必要な対応ができるようにする。	応急手当講習会などで知識や技術を身に付ける。保健だよりで身近な症状の対処法を周知する。	B	A	応急手当講習会に加え、災害時対応を生徒保健委員が調査し、学校保健委員会で発表。文化祭や保健だよりで災害への備えも考える機会とした。	
17	総務	PTA・同窓会活動の活性化を図り、教育活動への協力を求める。	PTA活動への協力を呼びかける。同窓会は30周年に向けHPで情報発信を積極的に行う。	B	A	PTA会員同士の交流機会が増え、感想は概ね良かった。創立30周年を記念した同窓会懇親会を実施したが、今後については検討が必要である。	
18		火災や地震等の自然災害に備えた体制づくりと校内美化に努める。	防災訓練において災害対処法を学ばせる。日々の掃除活動の活性化を図る。	B	B	防災訓練は、円滑に実施することができた。業者による窓の清掃も行われたが、普段の清掃でできないところが多く存在していると思われる。	
19	学年団	1年団	基本的な生活習慣を確立し、一人一人が責任ある行動をとれるようにする。	教員間の連携を密にして、校内外のルール厳守、挨拶励行など、生活指導の徹底を図る。	B	B	挨拶、時間厳守、服装面は良好。携帯電話の校内使用は1学期6件、2学期5件、3学期(1月末現在)0件と減少し、規範意識の向上が見られた。
20			充実した学校生活を送り、進路実現への高い意識を持って進級する。	支援や配慮を要する生徒などへの細やかな生活指導、学習習慣を身に付け進路目標を立てさせる。	B	B	2学期になり定期考査の不振者が増加。11月実施の模試の結果は7月よりも向上した。部活動の退部者はほとんどおらず、意欲的に活動できている。
21		2年団	本校の中核としての意識をもち、基本的な生活習慣を徹底し、責任感を促す。	時間厳守、挨拶励行、授業を基本とした学習習慣の確立を徹底させる。	B	B	2学期以降も遅刻する生徒がいることから、余裕ある登校を引き続き指導したい。担任の適切な声掛けや指導で落ち着いた学校生活を送れている。
22			学校内外での充実した活動を通じて、十分な学力が身に付くように支援する。	教育相談と連携して細やかな対応を行う。教育研究・進路指導部と連携し、確かな学力を身につけさせる。	B	A	LHRや担任等との面接で進路希望に適した科目選択ができた。教育相談部と連携して情報共有し、適切に対応した。生徒の進路意識が高まった。
23	3年団	最上級生(新成人)として、品格・社会性を持った人物を育てる。	基本的な生活習慣を確立し、集団生活の中で、責任ある行動ができる態度を身につけさせる。	B	B	遅刻は2学期末時点で延476回と昨年度(524回)より微減。携帯電話違反は8回で昨年と同数。マナー、服装面は問題ないが、今後も粘り強く指導。	
24		進路目標達成のため適切な学習指導・進路支援を行う。	心のケアをしつつ学習状況、希望進路を把握し、将来を見据えた進路の検討を継続的に行う。	A	A	2学期末時点で41名(昨年度38名)の生徒が進路決定。共通テストは良好な結果であった。情報提供、個別指導を充実させ進路実現を支援したい。	

※「中間評価」：9月末時点での達成状況 「年度末評価」：1月末時点での年度末最終達成見込み A＝「良く成果をあげた」 B＝「成果があがった」 C＝「あまり成果がなかった」

学校評価アンケート（生徒）

※各項目とも「5」が「おおいいあてはまる」、「1」が「全くあてはまらない」

設問項目	1年全体			
	人数	平均	標準偏差	対13相関
13 総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	274	3.93	0.96	1.00
4 目的意識を持って自主的に行動することができる。	274	3.58	0.97	.43
5 自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	275	3.16	1.00	.33
6 校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	275	3.90	0.93	.29
7 学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	275	3.21	1.00	.30
8 社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	275	4.30	0.81	.20
9 人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	275	4.09	0.85	.23
10 学校行事に積極的に取り組んでいる。	275	4.04	1.02	.45
11 部活動に積極的に取り組んでいる。(加入者のみ)	244	4.30	0.96	.37
12 自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	275	3.91	0.94	.52

設問項目	2年全体			
	人数	平均	標準偏差	対13相関
13 総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	267	4.01	0.92	1.00
4 目的意識を持って自主的に行動することができる。	267	3.69	0.92	.35
5 自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	268	3.52	1.00	.26
6 校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	268	3.85	0.89	.15
7 学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	268	3.54	1.03	.31
8 社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	268	4.40	0.71	.35
9 人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	267	4.28	0.77	.28
10 学校行事に積極的に取り組んでいる。	267	4.28	0.91	.31
11 部活動に積極的に取り組んでいる。(加入者のみ)	223	4.49	0.80	.40
12 自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	268	4.06	0.98	.49

設問項目	3年全体			
	人数	平均	標準偏差	対13相関
13 総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	263	4.08	0.93	1.00
4 目的意識を持って自主的に行動することができる。	263	3.92	0.87	.43
5 自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	263	4.16	0.86	.40
6 校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	263	3.98	0.95	.46
7 学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	263	3.88	0.95	.34
8 社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	263	4.42	0.81	.53
9 人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	260	4.25	0.87	.44
10 学校行事に積極的に取り組んでいる。	263	4.22	0.94	.50
11 部活動に積極的に取り組んでいる。(加入者のみ)	199	4.28	1.00	.30
12 自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	262	4.16	0.95	.51

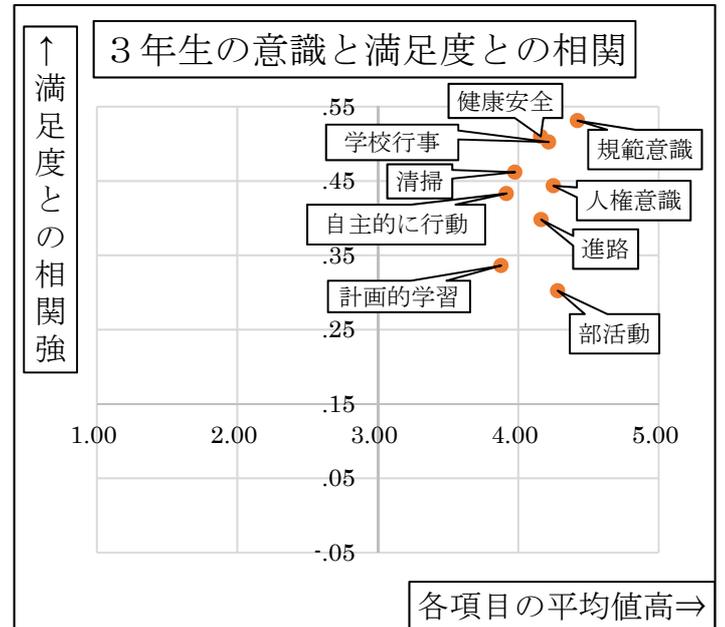
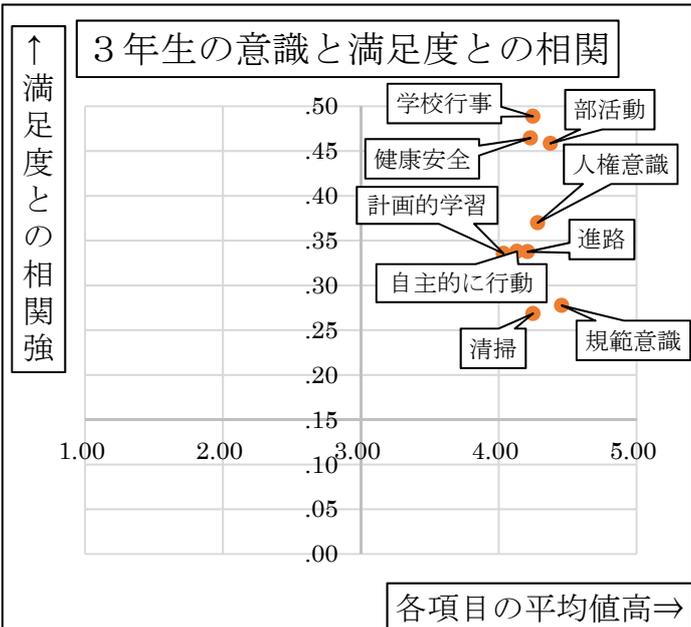
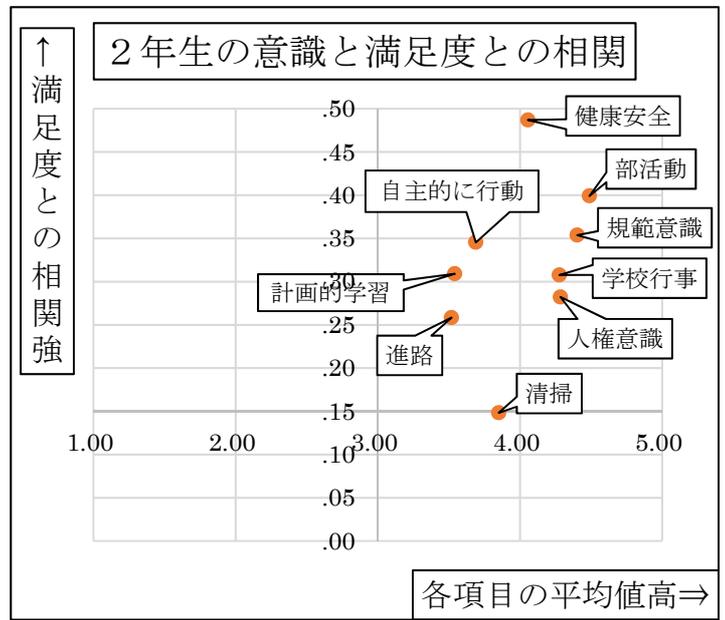
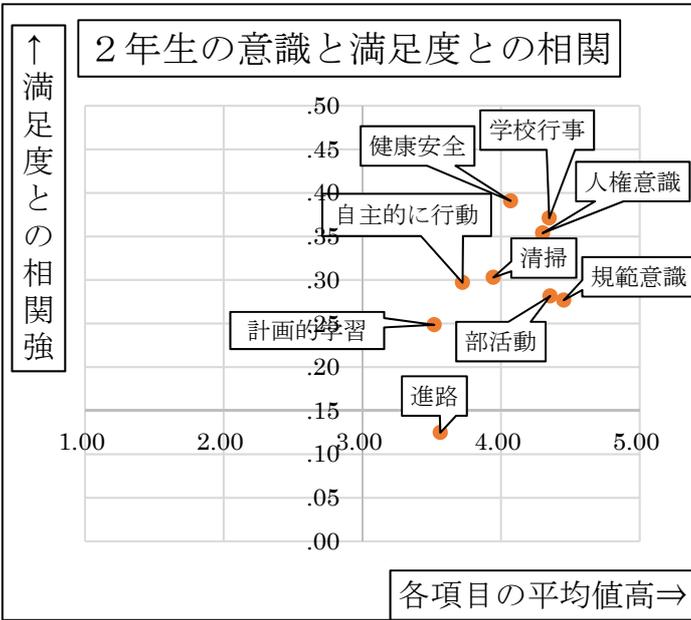
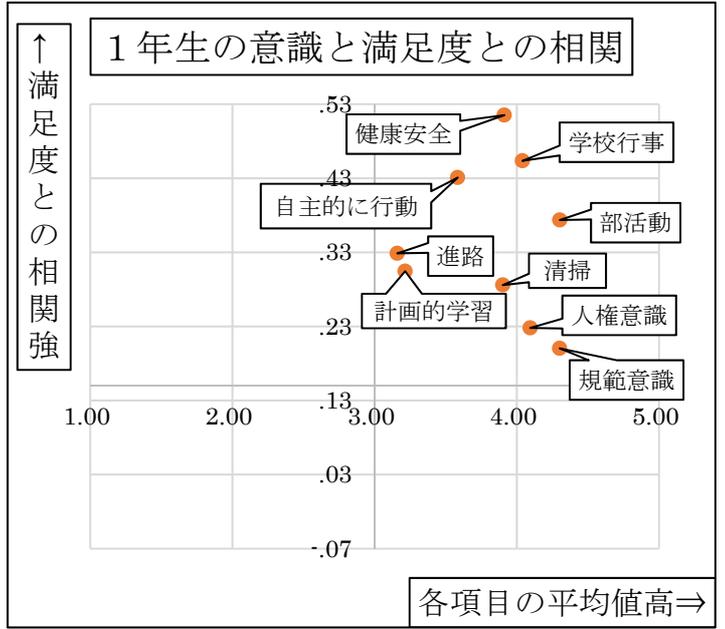
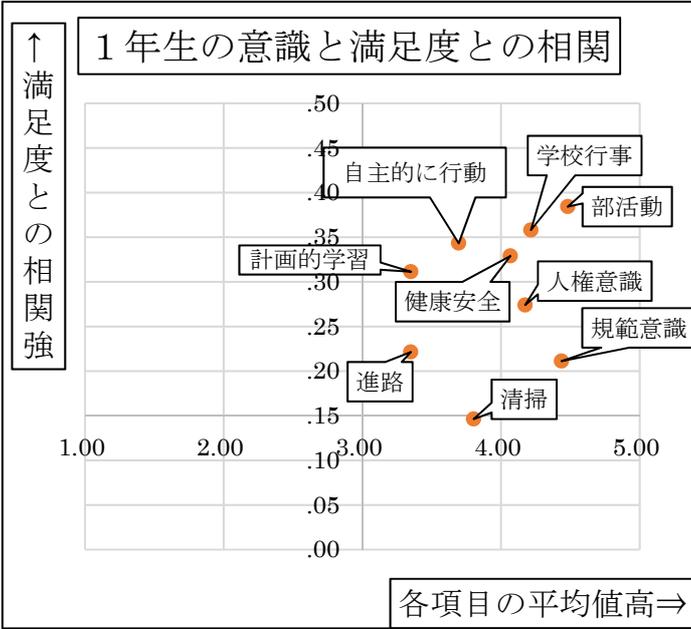
次ページの表の見方について

- ・横軸は各学年、各項目の平均値で、右の 5.0 が「おおいいあてはまる」、左の 1.0 が「全くあてはまらない」である。
- ・縦軸は「総合的に判断して、本校での学校生活に満足している」項目との相関が高いものが上に来ている。例えば、今年度3年生では「社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている」で「おおいいあてはまる」を選んでいる生徒の「学校生活満足」度が高く、「全くあてはまらない」を選んでいる生徒が「学校生活満足」度が低いという傾向にある。言いかえると「満足」度が「規範意識」に最もよく表れているとも言える。
- ・昨年度との比較については、同一学年での比較もできるが、昨年の1年生が2年生に、2年生が3年生になってどう変わったかという、昨年度からの変化として見ることも可能である。

令和5年度

学校評価アンケート（生徒）

令和6年度



R6学校評価アンケート（教員 保護者）

※各項目とも「5」が「おおいにあてはまる」、「1」が「全くあてはまらない」

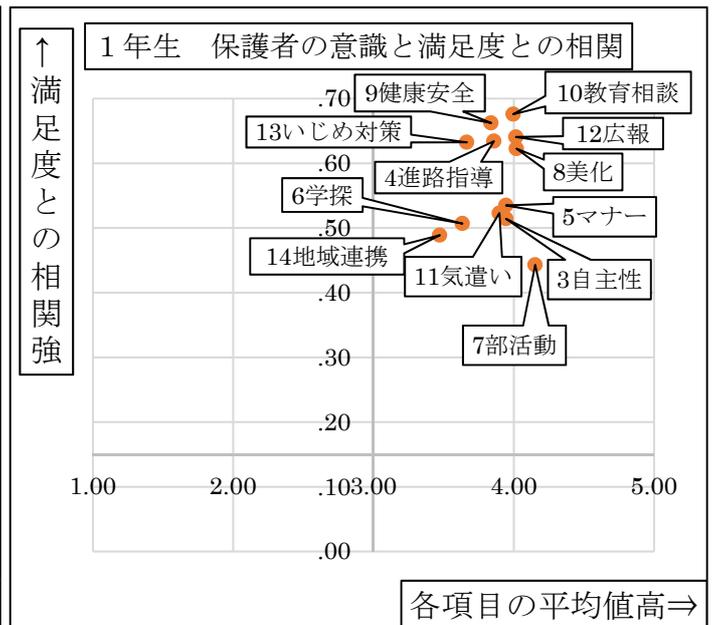
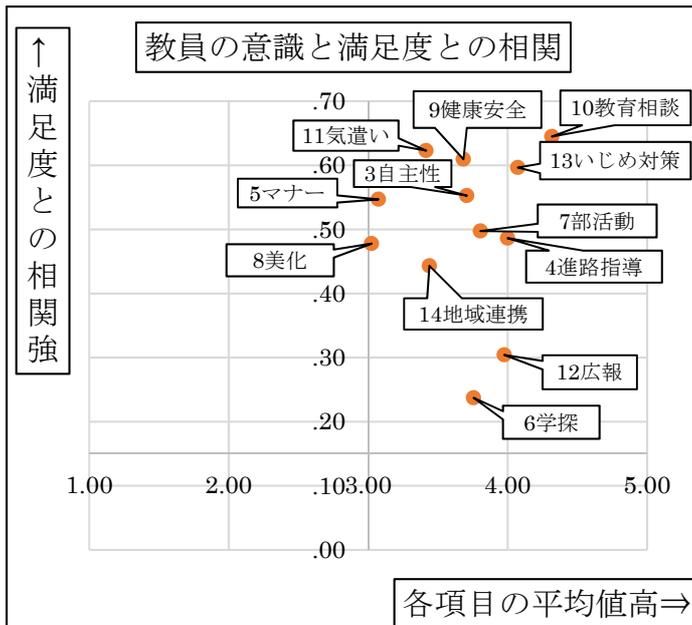
設問項目	教職員			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	41	3.78	0.69	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	41	3.71	0.68	.55
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	41	4.00	0.67	.49
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	41	3.07	0.91	.55
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	41	3.76	0.73	.24
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。	41	3.80	0.60	.50
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	41	3.02	0.85	.48
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	41	3.68	0.72	.61
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	41	4.32	0.72	.64
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	41	3.41	0.74	.62
12 学校新聞や広報誌、HP等により情報発信の充実に努めている。	41	3.98	0.57	.30
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	41	4.07	0.65	.60
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	41	3.44	0.90	.44

設問項目	1年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	254	4.08	0.74	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	254	3.94	0.76	.51
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	254	3.86	0.74	.63
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	254	3.94	0.71	.53
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	254	3.63	0.89	.51
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	229	4.15	0.79	.44
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	254	4.02	0.77	.62
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	254	3.84	0.74	.66
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	254	4.00	0.75	.68
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	254	3.90	0.79	.52
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	254	4.02	0.75	.64
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	254	3.67	0.79	.63
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	254	3.47	0.96	.49

設問項目	2年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	223	4.02	0.77	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	222	4.01	0.68	.52
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	222	3.83	0.75	.59
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	222	3.88	0.64	.50
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	218	3.68	0.78	.42
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	204	4.25	0.75	.38
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	222	4.03	0.80	.44
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	221	3.76	0.73	.56
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	223	3.88	0.74	.53
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	223	3.91	0.73	.54
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	221	3.87	0.71	.58
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	220	3.65	0.72	.60
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	222	3.36	0.95	.47

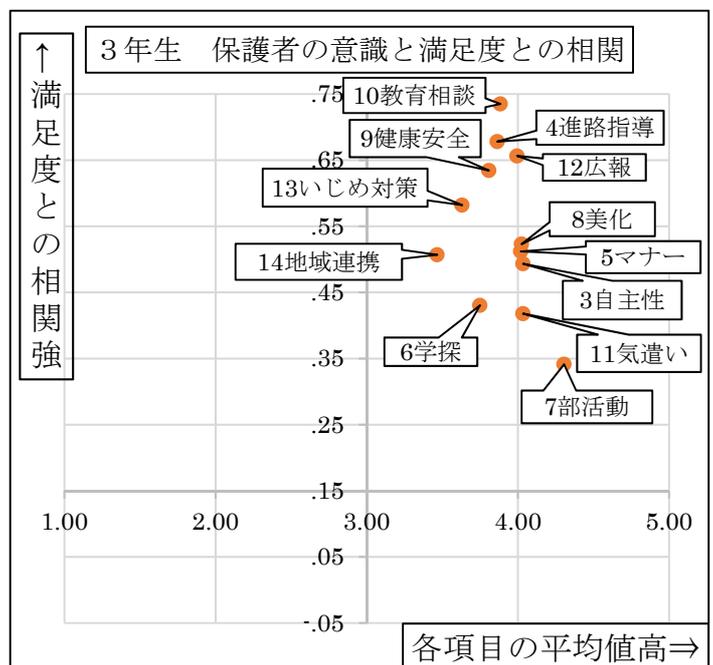
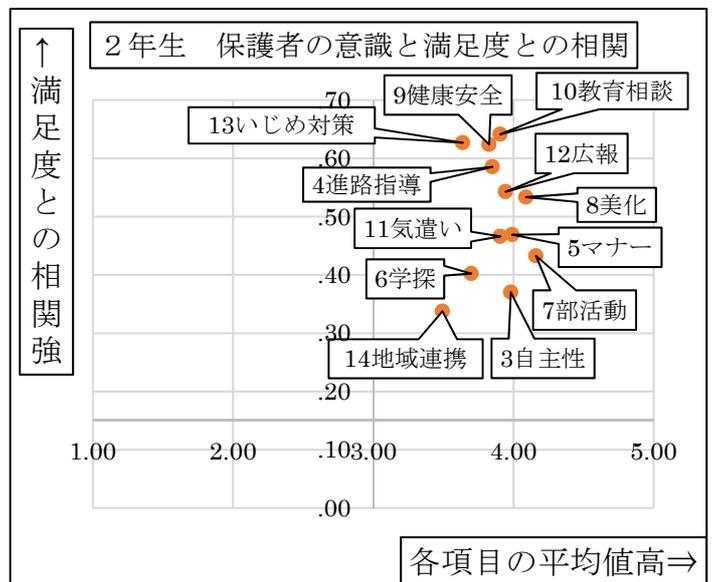
設問項目	3年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	206	3.99	0.90	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	206	4.03	0.76	.49
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	205	3.86	0.93	.68
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	206	4.02	0.76	.51
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	203	3.75	0.90	.43
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	190	4.31	0.80	.34
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	205	4.02	0.87	.52
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	203	3.81	0.88	.63
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	206	3.88	0.97	.74
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	206	4.03	0.75	.42
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	206	4.00	0.84	.66
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	206	3.63	0.82	.58
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	206	3.47	1.00	.51

R6 学校評価アンケート（教員 保護者）



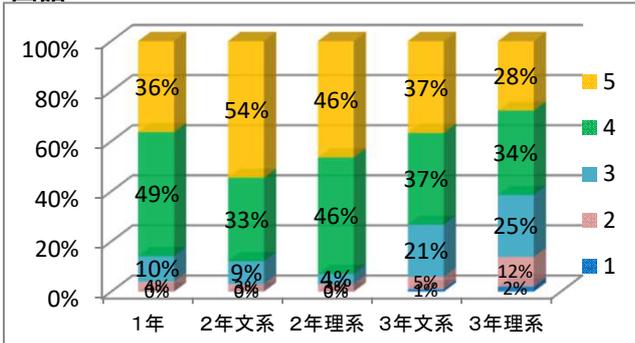
表の見方

- ・教員と保護者が同じ項目でアンケートをとり、比較できるようにしている。
- ・横軸は各項目の平均値で、最も右の5.0が「おおいにあてはまる」、最も左の1.0が「全くあてはまらない」である。
- ・縦軸は「総合的に判断して、本校の教育活動（運営）に満足している」項目との相関が高いものが上に来ている。例えば、全学年の保護者で「10教育相談」に相関の高さがみられる。
- ・別の例でいうと、前ページの2・3学年の保護者で「7部活動」の平均値が最も高くなっている。しかし、「満足」度との相関は高くない。つまり、2年生保護者の「満足」度は「部活動」よりも「13いじめ対策」や「9健康安全」などに表れ、3年生保護者の「満足」度は「4進路指導」によく表れているということが言える。

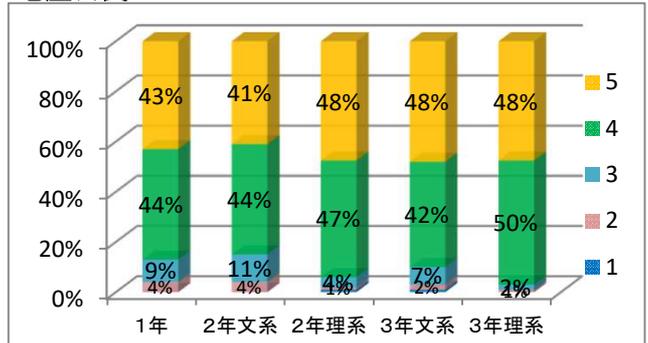


質問1 私は、自主的に学ぶことができていた。

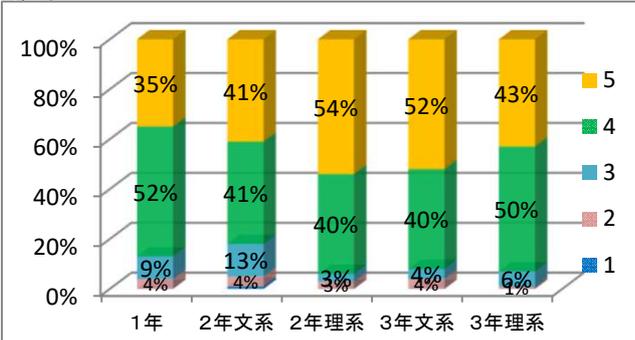
国語



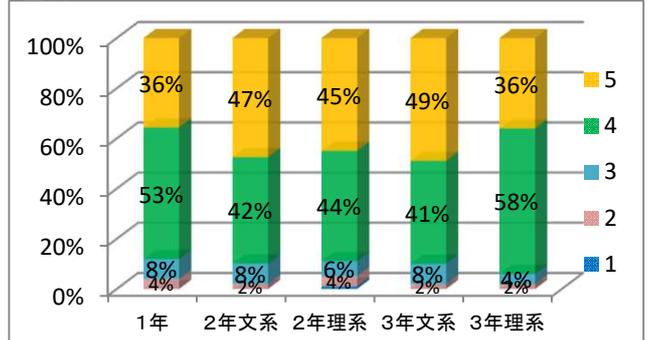
地歴公民



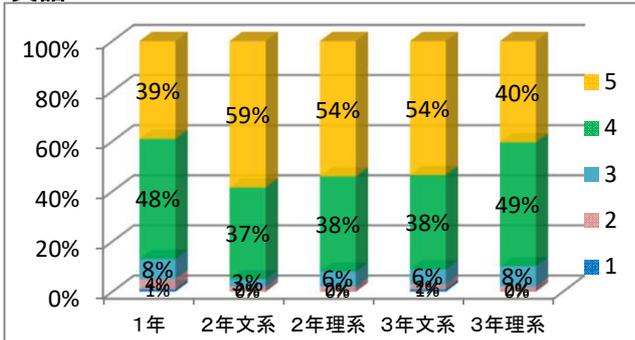
数学



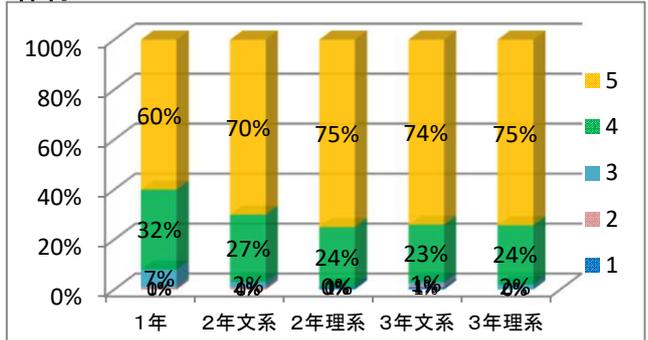
理科



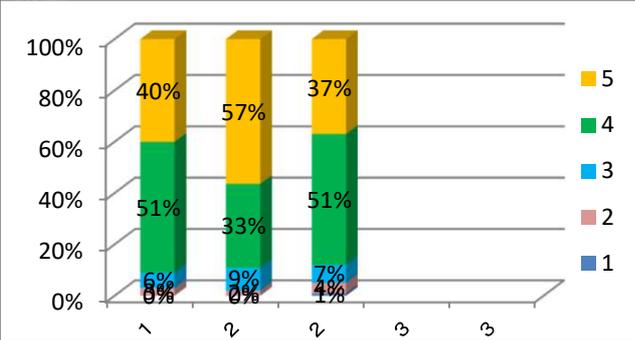
英語



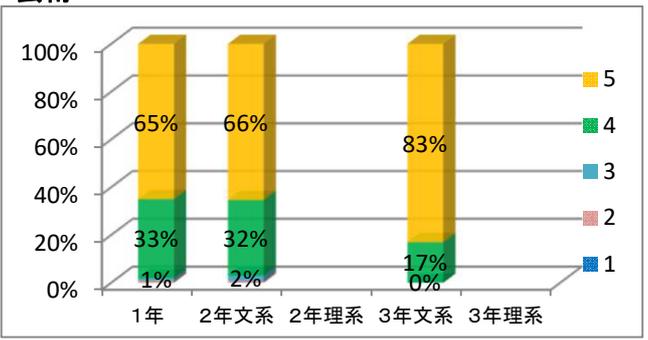
体育



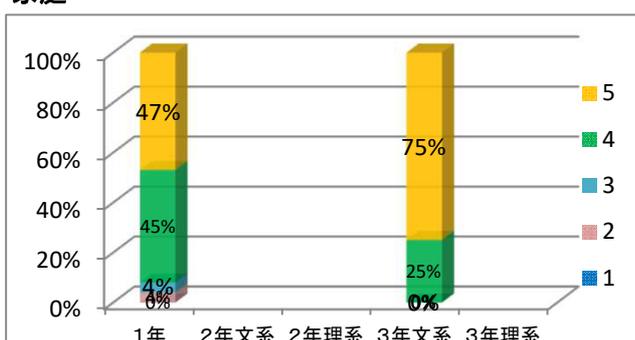
保健



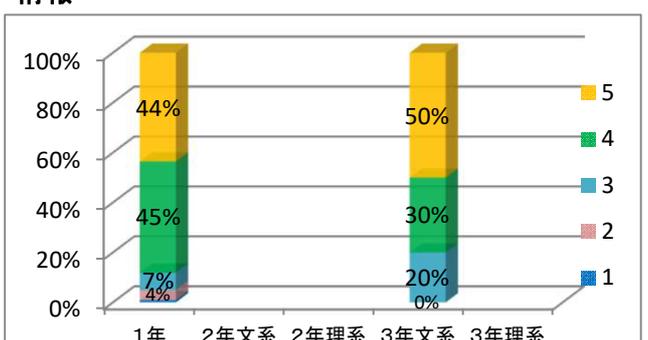
芸術



家庭



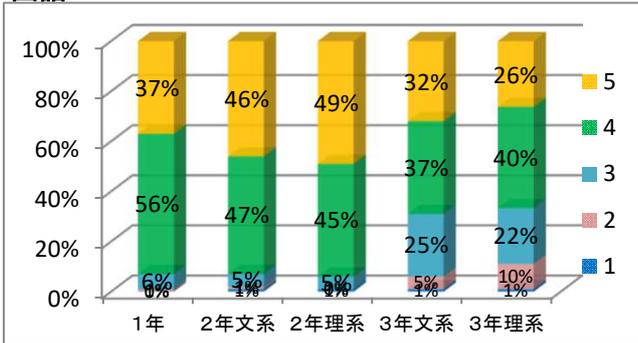
情報



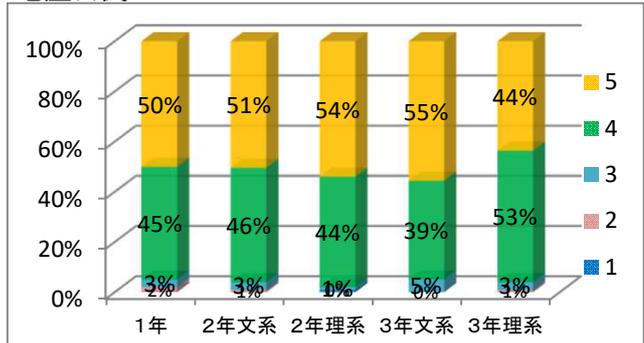
5: あてはまる, 4: いくらかあてはまる, 3: どちらでもない, 2: あまりあてはまらない, 1: あてはまらない

質問2 私は、当該科目の授業をきっかけにして、できる(わかる)ことが増えた。

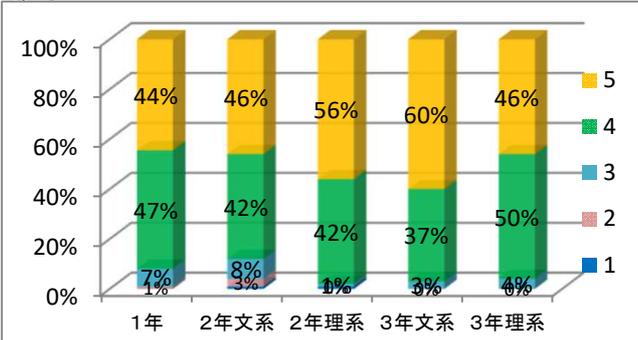
国語



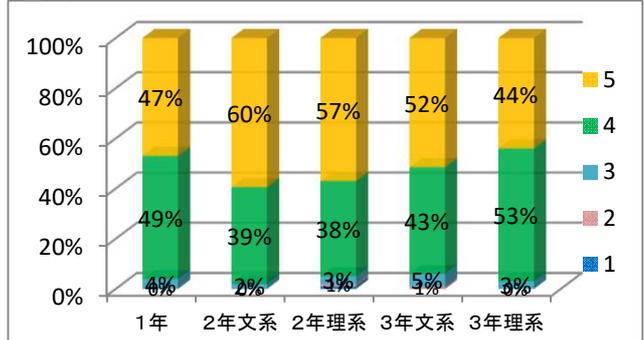
地歴公民



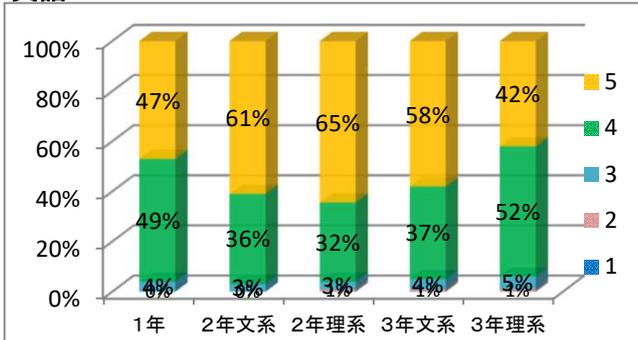
数学



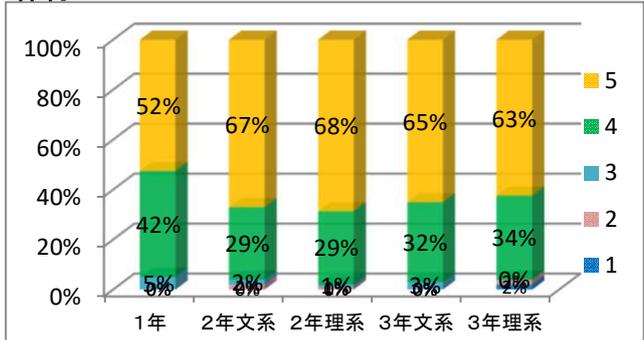
理科



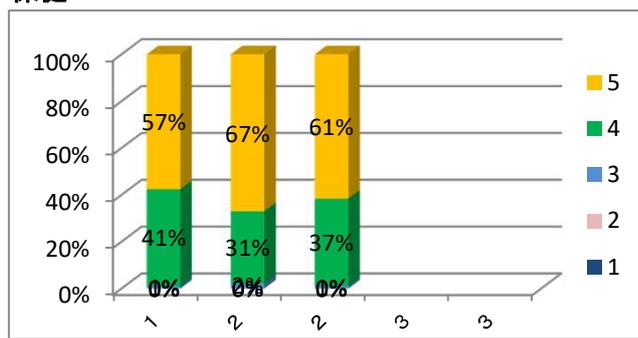
英語



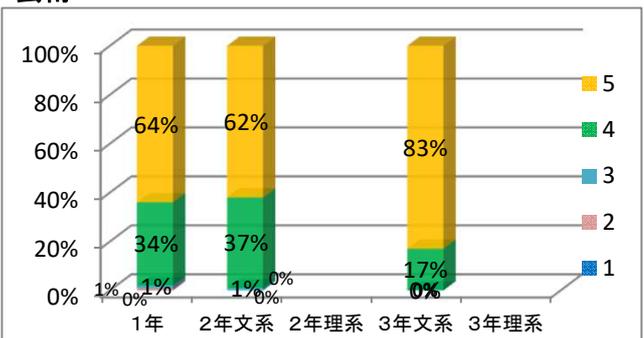
体育



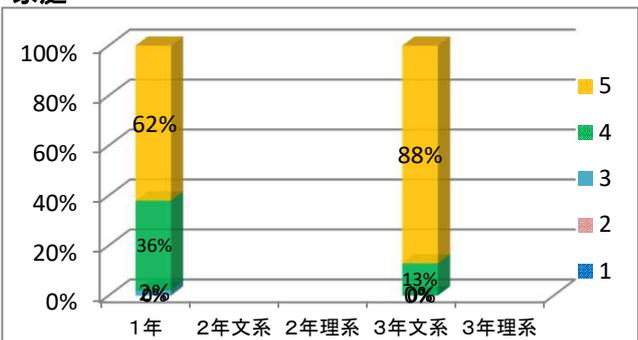
保健



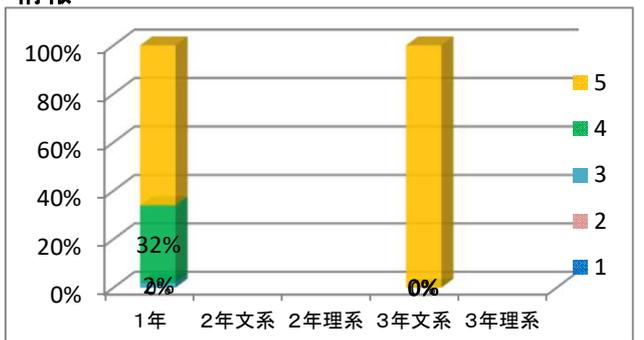
芸術



家庭



情報



5: あてはまる, 4: いくらかあてはまる, 3: どちらでもない, 2: あまりあてはまらない, 1: あてはまらない

令和6年度 学校関係者評価委員会（兼 第2回学校評議員会）会議録

1. 日時 令和7年2月12日（水） 15:00～16:30
2. 会場 高松桜井高等学校 校長室
3. 出席者 学校評議員 3名 PTA役員 4名（会長、副会長3）
学校 6名（校長、教頭2、事務部長、教務主任、教育研究部長） 計13名
欠席者 学校評議員 1名

4. 内容

- (1) 現況報告とスクールミッション・スクールポリシー [校長]
- (2) 主な行事報告と行事予定 [教務主任]
- (3) 学校評価関係行事報告

- ・分掌等自己評価 [教頭]
- ・アンケートによる評価（保護者、生徒、教職員） [教育研究部長]
- ・生徒授業評価 [教育研究部長]

(4) 質疑応答（抜粋）

(委員) 「分掌等自己評価」の各項目の評価は総じて控えめであるように見受けられる。2、3、9、12、19などの項目は、Aでもよいのではないかと。Bの評価で課題が明記されている項目はなるほどと思うが、成果があって課題の明記がない項目は、Aでもよいのではないかと。

(学校) 教育研究部では、総合型選抜や共通テストを課さない年内の入試に対応できる力を、「学探」の課題研究で身につけさせようとしているが、残念ながら何人かの課題研究でインターネットの記事などをコピー&ペーストして済ますなど、学校が設定した水準に達していないものがあった。そのようなことから評価をBとした。ただ、先ほどの委員の言葉はありがたく受け止めたい。

(委員) 水準に達していない者がいても、それが他の項目と同様の割合なら評価はAでよいと思う。

(学校) 教務部では、ICTに関する教員研修をしているが、授業でICTを積極的に活用するに至っていない教員もいるため、評価をBとした。一方で、積極的に活用している教員からは活用事例を収集している。

(委員) 生徒の授業評価アンケートについて、教科「情報」を例に挙げるとわかりやすい。生徒は「自主的に学ぶことができている」の質問項目には、「あてはまらない」という回答が一定数あるが、「授業をきっかけに分かることが増えた」の項目には、「あてはまらない」という回答は0%である。つまり、ICTとはきっかけさえあれば自然と学ぶものであって、評価についても取り組みを重視して判断すればよいのではないかと。

(学校) 教員は、成果を100%に近づけようとするため、少しでも至らないところがあると厳しい評価をしてしまうことがある。委員の意見のように詳細に分析をすれば、良い評価ができる項目があると感じる。

(委員) 新聞で共通テストの問題を見たが、新科目の「情報」については、どのように対応しているのか。

(学校) 現在、1年生全員が「情報I」を履修しているが、「情報」の授業を2・3年生の教育課程に設定することは授業時間数から難しい。その代わりに、2年生は夏季休業中に課外授業をしたり、3年生は夏季休業中に課題を課したり、校外模試の受験を勧めたりなどをして定着を図っている。

(委員) 今回の共通テストの「情報」の成績はどうであったか。

(学校) 全国平均と本校の平均を比べると、健闘していることがうかがえる。共通テストの問題は文字数が多いが、生徒は対応できたのではないかと。

(委員) 生徒のなかには、学校と家庭の両立をしなければならない生活の中で、学びづらさを抱えている生徒もいると思うが、そのような生徒にはどのような関わりをしているか。生徒の学びづらさといったものが、転学する段階になってはじめて発見されることもあると思うが。

(学校) 早い段階で対応するようにしている。特に、今年度は遠隔授業によって学校とつながる体制を整備した。遠隔授業については、SCやSSWとも連携し、生徒の状況を見極めながら実施を判断している。

(委員) 今年度、退学した生徒はいるのか。

(学校) 転学者はいる。現在、遠隔授業を実施して学校とつながろうとしているケースもある。SCやSSWとの面談を希望する生徒や保護者が多いことから、SCやSSWについては多くの時間を割り当ててもらっている。一方で、生徒からSOSが出せるようになることも、生涯にわたって必要な力と考えている。生徒にそのような力をどのようにつけさせていくかが課題である。同時に、教員も生徒のSOSをキャッチできるよう、常にアンテナを立てておきたい。

- (委員) かつてPTA会長として、当時の校長先生と今回のような会で話をした際に印象深かったのは、学校は最終的には、その生徒を応援する気持ちで退学や転学をさせることもあるという話である。また、先ほどの遠隔授業の話からも、学校が生徒とつながろうとしている姿勢を改めて感じる事ができた。今後も将来ある生徒たちのために頑張ってほしいと思った。
- (委員) 私の子どもは1年生当初、長期間欠席した。その時、担任に相談したら、親身になってくれた。欠課時数が多くなるなかSCにも相談に乗ってもらい助けていただき、何とか学校に行けるようになった。2年生になっても担任はこまめに連絡をくれた。2・3年が同じ担任で本当によかったと思っている。子どもは修学旅行や体育祭にも参加でき楽しかったと言っていた。学校には本当に感謝している。本校はいい学校であった。
- (委員) 昨年度の高校生の自殺者数増加の新聞記事を見たが、学校は生徒の心の教育が大事であると思う。高松桜井高校のHPを見て、心の教育をととても大事にしていることがうかがえた。そのような学校の姿勢は継続してほしい。
- (委員) 今年3年目にして初めて体育祭を観覧できた。私たちはテントがあったが、生徒にはテントがなく炎天下で過ごしていたが、仕方ないのか。
- (学校) 来年はテントが一つ増える。現在は、体育祭を4月下旬に実施しているが、5月に実施することになれば現状のままでは難しいと考えている。
- (委員) 今年、夏の野球応援がなくなったのはなぜか。
- (学校) 昨年度末までに、野球応援は準決勝からと決めた。他校を含めて昨年度の様子を聞くと、熱中症等で体調を崩したり、救急搬送されたりしたケースがあった。また、吹奏楽部からは屋外の炎天下での応援や搬送等により楽器が傷んだり、野球応援直後のコンクールに向けた練習に支障が出たりすると聞く。さらに、この時期は授業、土日の校外模試、夏期課外があるが、直前まで試合日程が決まらないことなどから、生徒の体調管理が難しい面もある。今年度は、生徒有志が自主的に応援している姿に感動したが、学校行事として昨年度までのように野球応援を復活するのは難しい。
- (委員) スマホについて、生徒間のグループLINEでいろいろなトラブルがあると聞いているが、担任はどこまで関わっているのか。
- (学校) 基本的に学校は、生徒間で作られたグループLINEは把握できないし、関わっていない。生徒への連絡はTeamsを使っている。
- (委員) 私の子どもの時もそうだったが、LINEは生徒が自分たちで勝手にやっている。LINEに入らない子もいる。親としてはLINEでの付き合いが面倒だったらLINEから外れたら、というように構えているのがいいと思う。入っていない子には入っている子から連絡がいくと思う。
- (学校) 教員の知らないところで、生徒がグループをつくっているのが実情だと思う。私も親として、子どものLINEグループが校内だけのものなのかと心配が尽きない。
- (委員) 私は、スマホは親が子どもに貸与しているものなので、何かあったら取り上げるという姿勢は崩さないようにした。
- (学校) 学校としてはSNSの使い方について、繰り返して指導をするしかない。24時間、誰かとつながっている状況に疲労感を感じている生徒もいるだろうと思う。
- (委員) 家庭で夜10時以降はスマホが使用できない設定をすることで、夜は使えないことを親のせいにして、子どもも楽になると思う。
- (学校) 委員の皆様から頂いたご意見を整理して教員でも共有したい。今回の学校評価に関する資料は学校のHPに掲載する。引き続き委員の皆様には学校に対するアドバイスをいただきたい。
- (学校) 本日は貴重な意見をいただいた。本校にかかわる方々と話をした際、本校に期待しているという声を聞くことも多い。今後も、生徒が成長できる機会を地域とつながりながら進めていきたい。本日はどうもありがとうございました。

(以上)